

先進の発酵リン酸

飛躍的に効きめを高めた肥料調整剤 … 決め手は発酵

チ ッ 素 = 0%
リ ン 酸 = 12%
カ リ = 10%
マグネシウム = 2%

発酵ピーケーマグ
PK+M

リン酸・カリ・マグネシウム・カルシウム・鉄の肥料

リン酸肥料は“発酵したか・しないか”ではその効きめは雲泥の差です。

一般的に売られているリン酸肥料は、極めて短時間で土に吸着固定され、植物の利用できない肥料に変わってしまいます。

発酵により“必要な時に必要なだけ”根が吸うことができる土に固定されない効率よく効くリン酸です。

—— 発酵はリン酸の効きめを高める決め手です。 ——

こんな時にこんな使い方

1. 生長期(8月下旬頃まで)にチッ素過剰となった時

「葉色が濃くなってきた」「葉のフチが波打ってきた」

「葉っぱが巻き気味になってきた」などの症状が現れた時。

近年、夏の暑さは厳しく根の活力が低下する為、肥料は残りやすい。

秋にまとめて肥料調整をしようすると大変になる。

2. 秋の肥料調整

「止め肥」「追い込み肥」を与えチッ素過剰気味となる。チッ素分の消化を図り、開花期をむかえ充実した木づくりをする為に調整します。

また花の肥大、花ぐされ予防、開花助成にもチッ素分の消化は重要です。

特 徴

- ・主成分はリン酸、カリ、マグネシウム、カルシウム、鉄等です。
- ・【ピーケーマグ】のリン酸は、きわめて効率よく利用できる為、チッ素過剰症をすみやかに改善し充実した木づくりができます。
- ・また、秋の肥料調整においては、過剰に吸収されたチッ素をすばやく消化させ、花の肥大、花の色、ツヤ向上に効果的に働きます。
- ・【カリ】は、生理作用を安定かつ円滑にし、根や幹を丈夫にし、天候不順時や病害虫に対する抵抗性を高めます。
- ・【マグネシウム及び鉄分】は光合成を活発にし、チッ素の消化を助け、肥料残りを軽減します。
- ・【カルシウム】は、植物の細胞を丈夫にし、花ぐされや花のシミを予防します。また、チッ素の吸い過ぎによる葉の枯れ込みを軽減します。



内容量 正味 1 kg
チッ素-リン酸-カリ-マグネシウム
0 - 12 - 10 - 2



肥料調整後の草姿

※重度のチッ素過剰症の場合は、事前に「エストール」で肥料除去をすると肥料調整が円滑になります。

肥料調整剤 **PK₊M** の効果的な使い方

P.Kマグはリン酸とカリ・カルシウム・マグネシウム・鉄の肥料です。

さらに製造の過程で発酵してある為に根が非常に吸いやすい形の肥料です。

肥料成分の他に発酵過程で有益微生物がくり返し増殖している為に有益微生物の種菌としての側面も持ち合わせ、通気性や排水など、培養土の物理性を改善し、根の活力向上や根張を良くする効果もあります。このような機能を十分に活用することが最上の使い方です。

1 育苗期の使い方

サシ芽を鉢(ポット)上げた時の葉色は明るめの鮮やかな緑色が普通です。

鉢上げ後に無肥料にもかかわらず葉色が濃くなってくる場合があります。培養土にチッ素が多めに含まれている時はチッ素の多い肥料を与えると同様な生育をします。こんな場合は **PK₊M** を与え、正常な生育を促します。育苗期にはリン酸とカリの多い肥料を与えるのが基本です。

2 生長期(定植～花芽分化＝8月末)の使い方

「葉色が異状に濃くなってきた」「葉のフチが波打ってきた」「葉が巻きぎみになった」など、いずれもチッ素を吸い過ぎた症状です。

このまま放置すると茎葉にチッ素をため込んでしまうことになり、秋の肥料調整が非常に大変になります。

そこで **PK₊M** を与え、速やかに茎葉に溜まっているチッ素分の消化を促し、正常な生育に戻す必要があります。

3 秋の肥料調整

止め肥や追い込み肥の後はチッ素過剰気味となります。開花期の充実した木づくりに重要です。また、このまま開花期に進めば「花の肥大が悪くなる」「花のシミや花ぐされがでやすくなる」「花卉の乱れが起き、弁組が悪くなる」など優秀花にはなりません。

こうした問題を未然に防ぐ為に **PK₊M** を与え、過剰なチッ素分の消化を図り、開花に向かっての正常な生育を促すものです。生長期と同様に茎葉に溜まっているチッ素の消化を図ります。

使用する回数は、1回使用すれば良いというものではなく、茎葉の状態を見ながらチッ素過剰が解消できるまで与えます。

与える回数や量は「チッ素過剰の程度」により決まります。

9月上旬～9月下旬にかけて葉色が鮮やかな緑になるまでが理想です。

※P.K+Mは根から吸わせるタイプの肥料調整剤です。

P.グリーンは灌水及び葉面散布、どちらでも使える肥料調整剤です。

4 使い方及び使用量の目安

急いで効かせたい場合

表土全体にばらまき軽く土をかぶせます。

緩やかに長く効かせたい

表土にダンゴ状に置き軽く土をかぶせます。

使用量	生長期	秋の肥料調整
5号鉢	約5グラム	5～10グラム
7号鉢	約10グラム	10～15グラム
9号鉢	約15グラム	15～20グラム

※葉色を見ながら効果が確認できるまで適宜お使い下さい。

5 こんな時にこんな使い方

日照不足時

日照不足が長期に渡ると葉ツパと葉ツパの間が間延びする傾向が強くなります(徒長)

こんな時に“P.Kマグ”を与えると間延びを抑えることができます。

突然の上位葉の枯れ込み

高温時に多量のチッ素を吸い込んだ場合に一時的にカルシウムの吸収が抑制されることがあります。

このカルシウム不足により葉ツパの枯れ込みが発生します。

通常は葉ツパのフチが枯れ込む場合が多いのですが、最近は葉ツパ全体が枯れ込む場合もあるようです。梅雨明けで急に晴天となり、気温が上昇するような条件で発生します。

盆養では途中の葉ツパが枯れ落ちてしまったのでは話になりません。

梅雨明け直前に“P.Kマグ”を与えておくことで予防できます。

申込み・お問い合わせは

ウチダケミカル・コーポレイション

〒300-4204 茨城県つくば市作谷1711-12

TEL 029-869-1777

FAX 029-869-1666

郵便振替 00820-6-96628